

Vincent Cassel et Emmanuelle Devos
sur mes lèvres
un film de Jacques Audiard

くちびるから伝う愛
くちびるから知る犯罪

リード・マイ・リップス

Conception graphique du matériel publicitaire SG-00490

2002年セザール賞主演女優賞・脚本賞・録音賞 3部門受賞

ヴァンサン・カッセル エマニュエル・ドゥヴォス ジャック・オディアール (『天使が隣で眠る夜』) **監督最新作**

脚色/台詞: ジャック・オディアール トニーノ・ブナキスタ 撮影: マチュール・ヴァッドビエ 美術: ミシェル・バルテレミー 衣裳: ヴィルジニー・モンテル 編集: ジュリエット・ヴェルフラン オリジナル音楽: アレクサンドル・デスブラ 製作: ジャンルイ・リヴィー フィリップ・カルカソニス

Une coproduction SEDIF CINÉ B PATHE IMAGE FRANCE 2 CINÉMA. Avec la participation de CANAL + et du CENTRE NATIONAL DE LA CINÉMATOGRAPHIE

配給: シネマ/リジャン 提供: テレビ東京+シネマ/リジャン 協力: メディアファクトリー





L'audiophone <補聴器>

鼓膜を振動させる機械的な音。毎日繰り返される何気ない日常が、不快な周波数に変調され、私の神経を浸蝕していく……。



La solitude <孤独>

上司や同僚たちの理不尽な要求と不当な扱い、やり甲斐のないルーティンワーク。そして難聴。



L'homme <男>

若くて、細くて長い指……前科者。あいつの残り香が染みついたシャツに袖を通してみる。危険な匂いで愛が増殖する。でも、あいつは暗黒街に繋がっている。



La lèvre <唇>

私は唇の動きだけで、あいつの言葉を理解できる。心の内を読み取ることができる。たとえあいつの身に危険が迫り、囚われの身になったとしても、その唇からこぼれおちる言葉を私は見逃さない。ゆっくり、そう、もっとゆっくり。

私があなたを救ってあげる。

2002年セザール賞主演女優賞・脚本賞・録音賞 3部門受賞

主演:ヴァンサン・カッセル エマニュエル・ドゥヴォス ジャック・オディアール (「天使が隣で眠る夜」) 監督最新作

脚色/台詞:ジャック・オディアール トニー・ブナキスタ 撮影:マチュール・ヴァドゥビエ 美術:ミシェル・バルテレミー 衣裳:ヴァルジニー・モンテル 編集:ジュリエット・ヴェルフラン オリジナル音楽:アレクサンドル・デスプラ 製作:ジャン＝ルイ・リヴィー フィリップ・カルカソニス <2001年フランス映画/カラー/1:1.85/ワイド/ドルビー-SRD/119分/日本語字幕:寺尾次郎> 配給:シネマリゾナン 提供:テレビ東京+シネマリゾナン 協力:メディアファクトリー ノベライズ:メディアファクトリー刊

www.cinemaparisien.com

10月18日(土)より待望のロードショー!! 唇から始まる危険な愛。

タイムテーブル 12:20 2:40 5:00 7:20

特別前売ご鑑賞券¥1500 絶賛発売中!

劇場窓口にてお買い求めのお客様にオリジナル・ポストカードをプレゼント!! (限定)

テアトル梅田のサービスデー

- 毎週火曜日:男性の方¥1000均一
- 毎週水曜日:女性の方¥1000均一
- 12月を除く第1水曜日¥1000均一 (12月は1日が映画サービスデー)

梅田ロフトB1 06(6359)1080

テアトル 梅田

http://www.cinemabox.com/

仏本国はもちろん、アメリカ、ヨーロッパ全土で今なお異例のロングランヒットを記録中!
「アメリ」が嫉妬した!?
全世界が近年最高のフランス映画と賞賛した
本年度最高傑作、遂に日本公開!!

土地開発会社に勤めるカルラは、難聴というハンディキャップを抱えながら日々、書類整理や電話交換という遣り甲斐のないルーティンワークに追われていた。会社では、社長や同僚に軽んじられ、私生活では孤独を募らせる。そんなカルラの前に、ある日、粗野だがワイルドな魅力をもたえた青年ポールが、彼女のアシスタントとして現われる。ムシヨ帰りの保護観察付きの男と知りながら、ひと目で彼に言いしれぬ興味を抱くカルラ。一方、彼女が難聴ゆえの《読唇術》の持ち主であることを知ったポールは、カルラのその“特技”を利用して、闇の組織から大金をくすねる算段を思いつく。運命の共犯関係で結ばれた男と女の息もつかせぬサスペンスがスリリングに展開する。

「リード・マイ・リップス」は、デビュー作「天使が隣で眠る夜」で、映画作家としてただならぬ才気を覗かせたジャック・オディアールの長編第3作である。彼は往年のフィルム・ノワール『地下室のメロディ』(63)の名脚本家ミシェル・オディアールの愛息であり、本作では、平凡で孤独な女性が今まで踏み込んだことの

ない危険な世界へ身を投じていく様子を、時に官能的に、そしてスリル満点に描き出した。クールでエモーショナルな映像世界は「ヒッチコックを彷彿させる心理ミステリー」と大絶賛されている。

汗の匂いをシャツに染み込ませて、野性味溢れる強烈なセックス・アピールを放つポールに扮するのは、「ドーベルマン」「ジェヴォーダンの獣」のヴァンサン・カッセル。クールさと不器用さが共存する屈折した内面を持った憎みきれない“ダメ男”の魅力は、女性たちの心を捉えて放さない。

ヒロイン、カルラを演じるのは「そして僕は恋をする」「パリの確率」の演技派女優エマニュエル・ドゥヴォス。「ブス」と陰口を叩かれ、男に縁遠かったOLが、運命の男と出逢ってみせる恋する女の愛らしい心のひだを、繊細かつ大胆に演じた。本作の熱演で、「アメリ」独占かと思われた'02年のセザール賞では、大本命とされていたオドレイ・トトゥを抑えて、見事主演女優賞に輝き、主要3部門を独占した。

sur mes lèvres

リード・マイ・リップス